

令和5年度自己評価・学校関係者評価公表シート

2024年4月1日

学校法人聖母学園 観音寺聖母幼稚園

1 本園の教育目標

- 人との関わりをとおり、愛する心、思いやりの心、感謝する心を育む。
- 集団生活をとおり、将来生きる力の基礎となる豊かな人間性を培う。

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- 組織としての意識を各自が持ち、園の教育目標に向かって、主体的に意見を出し合い、園行事や保育を計画していく。
- 幼児の安心安全、地域に開放された園となるよう、園全体で取り組む。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	取組状況
I 保育の計画性	A	① 今年度は学級編成を変更した。年長児は少人数クラスの3学級、年中児は1学級に2人の担任を配置、年少児と満3児は発達に応じてそれぞれ別のクラスに分けた。質の高い丁寧な保育を行うことが出来た。 ② 年度当初に園行事について職員間で協議し、全体的な指導計画を立てた。各学年でも学期ごとの細かい計画を作成し、進めていった。作成した年間計画は保護者へも配布した。 ③ 職員間の共通理解を図るとともに、職員会議を行い、各教員が意見を出し合う場を設け、全員で計画し決定していった。
II 保育の在り方	A	① 現在の子どもの姿から、興味関心が何かを見極め、新しい保育内容を取り入れていった。 ② 実体験をとおり、様々な気づきや感動が得られるように、環境を構成した。 ③ 兄弟関係や預かり保育をとおり、異年齢でかかわり遊ぶ機会が増え、お互いを思いやる気持ちが芽生えた。園全体でも、自由活動中のクラスを超えての交流を大切にしていた。
III 教師としての資質・向上	A	① 子ども一人ひとりの思いを受けとめ、寄り添い、理解しようと努めた。 ② 自由活動においては、子どもの遊びの姿をよく読み取り、臨機応変に環境を再構成していくことが求められた。 ③ 朝礼・終礼時には情報の共有を行い、課題については全員で考え、改善改良に努め、取り組むようにした。
IV 保護者対応	A	① 送迎時や電話連絡等で、日々の様子を保護者に細かく丁寧に伝え、育児の不安を少しでも和らげ、信頼関係を築いていけるよう努力した。 ② 保護者対応について検討事項がある時は、必ず全職員に周知し、意見交換が十分取れるように場を設定した。 ③ ご意見箱等からでた保護者のニーズを理解し、職員内で共有し、よりよい対策を協議し、誠意をもって対応するよう努めた。 ④ PTA 役員会を通じて、園と保護者とが協力しあい、子どもたちにとつ

		て楽しい行事を計画・実行していった。 ⑤ メール配信機能のアンケート活用について、現在改良中。
V 研修と研究	B	① 長期休業中を利用するなどして研修参加の時間が取れるように工夫し、各自が積極的に学んだ。 ② 他園の行事を見学参加し、情報収集し、刺激となった。園行事のあり方を検討する機会がたくさん得られた。(次年度も計画したい) ③ カトリック幼稚園教職員研修や、祈り、ミサへの参加から、聖母幼稚園の教職員として大切にしている事を再確認できた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	① 他園の行事や見学の機会を積極的にとり、学ぶ良い機会となった。 ② 各自が主体的に目標を持って取り組み、幼児一人ひとりに応じて、あたたかく関わり、日々の保育を展開していった。 ③ 職員間での情報共有や、各自が意見を出し合う場を多くとり、皆で協力して園を作り上げていくという意識を持って取り組んだ。 ④ 二学期以降に入園する満3歳児について、親子で保育に参加する場をとった。このことは子育て支援活動の一環となった。今後も計画を予定し、活かしていきたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	子育て支援	① 預かり保育の充実を図る。(日数、時間について) ② 誰でも通園制度について情報を収集し、前向きに取り組む。未就園児の親子での参加、体験が出来るように、園開放を行う。子育ての相談や親子のあたたかい居場所となるように努めたい。 ③ 時代の変容とともに新しい課題が出てくると思われる。常に現在の幼児教育について敏感に感じ取れるようアンテナをもち、日々学び、理解しようと努力する。
2	職務分掌	① 園行事における役割を分担し、全員が携わって運営していく。 ② 預かり保育の担当職員、バス添乗職員の雇用により、教員が保育に集中できる環境づくりを行う。その際、引き継ぎ等、連絡漏れのないように努める。
3	教員の資質向上	① 教育課程は年齢別内容を見直し、職員間で話し合い、再構成する。 ② 園行事を見直し、幼児が満足できるまで遊びこめる時間を確保し、計画する。 ③ 南海トラフの災害時に備え、危機管理を見直し、安心安全に努める。 ④ 現在の社会情勢に応じた研修を行い、学ぶ機会を取る。 ⑤ 遊びが充実するよう、園内環境を見直す。(砂場や草花、自然物等) ⑥ 異年齢保育について、しっかり計画し、日々の保育に取り入れる。 ⑥ 人権や障がいについて、知り、気づき、学び、教職員として、お互いを尊重してかかわる事を、常に意識する。